

歴史学者・磯田さん



織田信長をテーマに講演する
磯田道史さん＝岐阜市長良、
岐阜グランドホテル

「新たな信長像」解説

岐阜信用金庫と、取引先の若手経営者でつくるぎふしん青年重役会による「しんきんの日合同講演会」が24日、岐阜市長良の岐阜グランドホテルで開かれ、歴史学者で国際日本文化研究センター教授の磯田道史さん

が「シン・信長論」と題し、歴史から学ぶリーダーシップをテーマに語った。磯田さんは「この10年で織田信長像は大きく変わっている」と述べ、最新研究から浮かび上がった「新たな信長像」を紹介。

岐阜信金講演会「保守的な面強い」

天下布武は日本の統一ではなく、当初は室町幕府の安定化という意味合いだったとした上で、「信長は足利義昭による幕府再興運動に参加した。革新というより、むしろ保守的な面が強かった」と語った。

さらに、残忍で冷酷とされてきたが、実は生真面目過ぎる性格であり「家臣や幕府はこうあるべきという自分なりのルールを曲げられない人。柔軟さがないゆえに周囲に裏切られ、最後は討たれた」と解説。会場の経営者らに「こちら側の要件だけを突き付けていると、事態がうまく回っていかないのは政治も商売も同じ」と語りかけた。

会場には取引先の経営者や一般市民ら約1200人が詰めかけ、信長への考察を深化させた。
(田代理加)